

退魔神巫聖女

真紅に染まる東京。血のような閃光が断続的に街を照らすたび、絶望に陥った人々の命が悲鳴と共に尽きていく。

女性が息を切らしながら駆ける。閃光から背を向けて、大切な命を枯らさないように胸を抱いていた。

家族は死んだ。母と父、夫や息子までも『奴ら』の餌食となった。あの日あの瞬間まで家族団欒の笑みを交わしていたはずが、物言わぬ肉塊に成り果てたなんて。

「あ、ぐっ……！！！」

女性の身体が大きく仰け反る。奴らに掛けられた首輪が自動的に作動し首を引っ張った。突然のことに彼女は嘔吐いた。

体勢を崩してその場に倒れると、背後から奴らが迫り、左右にもわらわらと醜惡が這い出てくる。

図体の大きい緑肌の奴。

薄皮骨身のやつれた赤肌の奴。こちらは短軀で推定一メートルほど。

「嫌、来ないで！ やめて！！」

泣き叫ぶ女性が家用のサンダルを投げる。最愛の家族を無惨に殺されたことへの怒りも込めていたが、緑肌のでっぷりとした腹に跳ね返る。

奴らはにたりと薄ら笑いを浮かべる。女性の腕を乱暴に掴むと、長く整えた髪を引っ張り、矢継ぎ早に服を破った。

「グフヘヘ……」

「オ、ンナ……」

繁殖欲。下級に属する奴らは本能で動いている。雄は殺害。雌なら子供だろうと、例え生殖に適さなからうと。どのような条件でも構わず犯す。

救いを求める甲高い声が切り裂かれ、なす術も無く蹂躪を受け入れるしかない。

「ひいひいひい！！」

スプラッター映画の被害者さながらの断末魔。女性は両腕を鎖で縛られる。

腹の上に赤肌の短軀がのしかかり、怯える乳房を容赦なくしゃぶる。緑肌の奴は激しく抵抗する女性を後絞めし、身動きひとつすら許さなかった。

「かひゅ……痛ひ、赤ひゃんできりゅ……たひゅけ」

「グオオ！！」

「ひゅ、ひゅー……」

酸素が頭に回らず酷く顔面紅潮する。愛撫なしに肉棒で膣内を掻き乱された。快楽は一切なく苦痛と恐怖だけが支配した。

赤肌の短軀の陰茎は実に二十三cmもあり、抜き差しの度、子宮口を貫かんとばかりに殴りつける。

尚も勢いは弱まらずドスンドスンと尻肉が波打つ。透明な汁と泡が膣口から溢れる。赤黒い睾丸の皮膚が一層色味を濃くしていく。

女性は本能的に理解した。自らが孕まされ、一生苗床になる運命を。

「う……」

「ビギユウワッ！！ グウォー！！」

非情の瞬間。無力な臓物を押し潰し、煮え立つそれが解き放たれる。

膣壺が射精圧に押されて変形する。鈍痛が走り、女性は低い声で呻いた。

奴らの精液は人間の精液よりも遥かに重く、量も尋常ではなかった。たった三回の吐精で風船のように満杯になるのに、何度も、何度も穢れた遺伝子が流し込まれていくのだ。

「破れ……死ぬ……あなた、ごめ……ん……」

脈動を感じ取るなかで夫の顔が過る。身を挺して庇って頭部を吹き飛ばされた場面がフ

ラッシュバックした。彼の命を無に帰してしまった。

自身が経験した時よりも一回り大きい腹。胎にはあの頃のような神様がくれた幸せはなく、異種の下劣な白濁液のみ。

「あ……あ……おえ……」

肉体的、精神的に限界を迎えた女性が眼を剥く。赤い顔はみるみると青ざめ、ぶくぶくと泡を吐いた。

意識が消失する直前、母性の鋭い勘が働いた。かつて息子を宿した時と同様の感覚。

あえなく彼女は受精した。奴らは魔の存在であり、魔の遺伝子配列は人間の数百倍近く膨大だった。故に植え付けられた種は凄まじい速度で細胞分裂を起こし、迅速に着床へと至る。

「ドケ、ヤラセロ」

しかし奴らの辱めは終わらない。

多胎を可能とする子種を持つ緑肌の奴らは、別種が交わった受精卵に追い打ちをかけることができる。

その後、飽くなき陵辱の宴は続いた。

「ビギ……ピチチ……」

「ちよつと止め、これ以上まだ太くなる気！？ あ、あああああ、おごつ！？ ダメ、まんなの形が終わる。戻らなくなっちゃうって！！ あぎぎっほおおお！！」

下腹部が太竿の形状に膨張した。

唇を縦に尖らせた阿呆面的那霧に激しく腰を打ち付けた。

小気味の良い破裂音が矢継ぎ早に響き渡る。陰茎以外、一見貧弱それでも生殖行為における一連の運動は熟れていた。

「ゴッ、オッ、ゴォ、ホッ！！♡ ごええ、はう、オオッ。まんこ突き上げ、チンポ抜かれる度に膣がひっくり返るッ。雄の覇気がピストンで分かる。コイツ、過去にもいろんな雌を手懐けてやがるっ。魔の失敗作の個体じゃない生物的上位のテクウ♡」

感情希薄な雰囲気に見えるが、その実、確固たる浅ましさを抱いている。
コノ、メス、ヨワイ。オデノ、タネデ、ハラミブクロ。

ムスコウマセル。ヒャクニン、ウマスマデ、チョウキョウスル。

ぞくりと那霧の背筋に悦が走る。魔の心の声を聞き様々な感情が沸騰した。

「ホッ、ホオッ、イッイイ♡ 凶悪マラに殺されるっ！ 勝てると思ったのに退魔神巫の名折れになるうう！ んぎおおお無理むりむり……チンポまだ膨らむのお？ 嫌、外に